

令和7年度自己評価書及び学校関係者評価書

札幌市立簾舞中学校

1 学校教育目標「緑の風に夢をせて 未来を拓く人となれ」

2 本年度の重点目標

夢の実現に向け自己を内省し(気づき)、自己肯定感に基づき(認め)自ら向上しようとする生徒(実行する)を、「アタマ」「ココロ」「カラダ」「ナカマ」を育てる教育活動を通して培う～「気づき、認め、実行する生徒」の育成～

3 学校経営の基本方針

- (1) 「学ぶ力」の育成
- (2) 「豊かな心」の育成
- (3) 「健やかな体」の育成
- (4) 特別支援教育・不登校支援の充実
- (5) 小中一貫した教育と家庭や地域とともにある学校づくり

4 自己評価結果 回答 教職員14名 保護者84名 生徒93名 計191名

アンケート回答結果→A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

「%」=肯定率(Aの%+Bの%)を表わす。回答結果(肯定率)が、75%以上ならA、45～75%ならB、45%未満ならばCと評価

分野	評価項目 (上段の数値は、A+Bの回答数)	自己評価		学校関係者評価	
		回答数	改善の方策	適切さ	
		肯定率		自己評価	改善策
学習指導	1 わかりやすく、理解しやすい授業を行っている。 教職員 = 13名 保護者 = 68名 生徒 = 86名 全回答数 191	167 87.4%	○本校の「学ぶ力の育成」プログラムに基づき、授業のねらいを子どもたちと共有し、基礎・基本を定着できる、「わかる・できる・楽しい授業」の構築を図る。 ○生徒の学びの質を高めるために、ICTの特性・強みを生かした効果的な学習を行い、情報活用能力の育成を図る。 ○今年度は3教科(数学・国語・技家)で少人数指導を行い、数学では習熟度別学習を導入し、各自の理解度に合わせて授業を行った。今後も、ティームティーチング等を効果的に活用し、指導の充実を図る。	A	A
	2 総合的な学習の時間は生徒にとって役立つものとなっている。 教職員 = 14名 保護者 = 77名 生徒 = 87名 全回答数 191	178 93.2%	○「課題探究的な活動」「自治的な活動」を重視し、他者と協働しながら学び、考え、判断する学習を繰り返すことにより、課題を設定し解決する力を育てていく。3年間の系統的な指導内容を充実させる。 ○一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てられるよう、外部団体と連携しながら生徒の興味・関心を高める学習展開を図る。	A	A
	3 生徒に家庭学習に取組ませ、学習の習慣化を図らせている。 教職員 = 12名 保護者 = 40名 生徒 = 42名 全回答数 191	94 49.2%	○放課後や長期休みを利用し、学年ごとに学習会を行い、学習の習慣化につなげる。また、来年度も小中連携での研修会を通して、家庭学習の習慣化を共通課題として把握する。また、課題の出し方を工夫をする。 ○自ら学ぶ方法や自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてる効果的な学習の構築を図る。 ○「さっぽろっ子学びのススメ」なども活用しながら家庭との共通理解のもとでの取組を進める。	B	A
学校関係評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の教科を増やしたことは、すばらしいと思いました。英語が入るともつと、こどもたちも助かるのではないかと思います。 ・もう行っているかもしれませんが、家で学習しづらい、生徒のために放課後の空き教室開放や先生へ質問出来る環境が普段からあれば良いなと思います。 ・学習評価で先生方の苦労がよくわかりました。今後も学ぶことの大切さ、また、体験学習も強化してほしいと思います。 				
生徒指導	4 学校生活のきまりを守り、落ち着いた学校生活を送る生徒を育てている。 教職員 = 14名 保護者 = 75名 生徒 = 87名 全回答数 191	176 92.1%	○授業や日常生活の中から、生徒の心の状況や人間関係の把握に努め、生徒の気持ちに寄り添った丁寧な指導を継続していく。 ○委員会活動の充実を図り、生徒自身が考える場面を作る中で、生徒の規範意識を高める。 ○学校と子どものつながりを太くし、生徒の心の動きを早期発見できるように、教育相談活動の充実とスクールカウンセラーや相談支援パートナーの積極的な活用を図る。	A	A
	5 しっかりとあいさつができる生徒を育てている。 教職員 = 11名 保護者 = 74名 生徒 = 85名 全回答数 191	170 89.0%	○生活委員会によるあいさつ運動を継続するとともに、教師からも積極的に声かけを行う。特別の教科 道徳での指導など、学校生活のさまざまな場面を通して生徒の心を育て、自ら進んであいさつできる生徒の育成を目指す。 ○小中連携の課題の一つとして位置づけ、児童・生徒会活動で共通の取組を行うことで、両校が協力してあいさつへの意識向上を図る。	A	A
	6 時間を守って学校生活を送っている。 教職員 = 14名 保護者 = 74名 生徒 = 89名 全回答数 191	177 92.7%	○時間を守る態度の育成を重視し、朝の玄関指導での声かけを継続するとともに、家庭にも協力を依頼しながら生活習慣の定着を図る。 ○学級指導において、毎日の生活リズムの確立を含む生活指導を計画的に行い、家庭と連携して生徒が主体的に望ましい生活習慣を身に付けられるよう支援する	A	A
学校関係評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今はスマートフォンを長時間使ったり、夜遅くまで使用するなどで生活リズムが崩れる子が多いと思うので、生活リズムの指導をして下さるのはありがたいと思います。 ・日ごろから代々の教育の成果もあり、挨拶の出来る生徒が多いと思います。 ・生徒指導は他校に較べて本校は礼儀作法は行き届いております。 				
進路指導	7 夢や目標を持って生活する生徒を育てている。 教職員 = 14名 保護者 = 70名 生徒 = 73名 全回答数 191	157 82.2%	○総合的な学習の時間、道徳、学級活動、進路探究学習を通して、生徒が自らの夢や目標を描き、予測困難な時代においても変化に対応しながら創造力を発揮できる力を育成する。 ○学校内外の多様な学習機会を確保し、さまざまな分野で活躍する方による職業体験や講話、地域との連携を取り入れることで、生徒が将来の生き方を主体的に考え、夢や目標を具体化できるよう進路指導を充実させる。	A	A
	8 進路情報の提供を行い、生徒の進路決定に役立っている。 教職員 = 14名 保護者 = 70名 生徒 = 78名 全回答数 191	162 84.8%	○高等学校の先生を招いた進路講演会を実施し、生徒が進路への関心を高め、将来の選択を主体的に考えられる機会を確保する。来年度も継続して講演会を行い、進路意識の向上を図る。 ○進路便りや学校ホームページを通して進路情報を継続的に提供するとともに、進路説明会や懇談の場を活用して、保護者にも適切な時期に情報を伝え、家庭と連携しながら生徒の進路決定を支援する。	A	A
学校関係評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・年々進路を決めるために幅を広げてくださっていると思ひ、評価したいです。 ・高校の進路講演会に保護者も観覧できるようにしてはどうでしょうか。(平日なので参加する親は少ないかもしれませんが) ・進路については、今まで通りでよろしいかと思います。 				

分野	評価項目 (上段の数値は、A+Bの回答数)	自己評価		学校関係者評価	
		回答数	改善の方策	適切さ	
		肯定率		自己評価	改善策
特別活動	9 行事は、喜びや感動があり充実したものとなっている。 教職員 = 14 名 保護者 = 76 名 生徒 = 84 名 全回答数 191	174 91.1%	○生徒の実態や興味・関心を踏まえ、活動内容を段階的に設定し、誰もが参加しやすい環境を整える。 ○活動前後に振り返りの時間を設け、自己有用感や達成感を高める仕組みを取り入れる。 ○生徒同士の協力や対話を促す場面を計画的に組み込み、学級・学年の人間関係づくりを支える。	A	A
	10 生徒会行事・学級活動を通じて、生徒を成長させている。 教職員 = 14 名 保護者 = 71 名 生徒 = 86 名 全回答数 191	171 89.5%	○生徒が安心して意欲的に活動できる環境を整え、主体的・対話的で深い学びにつながる活動内容を工夫する。 ○地域の特色を生かした体験的な学習や表現活動を充実させ、賑々しい創造性を育む学校文化の形成を図る。 ○学級活動・各委員会・生徒総会などでの討議を通して、協力して諸問題を解決していこうとする自主的、実践的態度を育成する。	A	A
	学校関係評価者による意見	・学級行事は思い出に残るものなので、これからも安心して活動できるようにサポートしてほしいと思います。 ・安心して活動出来ている様子、「学校だより」で伝わってきます。			
施設・設備	11 便りなどで、保護者や地域へ情報提供を行い教育活動への理解を深めている。 教職員 = 14 名 保護者 = 80 名 生徒 = 81 名 全回答数 191	175 91.6%	○学校HPやすぐるを活用した情報発信を継続するとともに、内容の分かりやすさやタイムリーさを高める。保護者・地域からの意見を受け取る仕組みを整え、双方向のコミュニケーションを促進することで、理解と協働をさらに深める。	A	A
	12 学校の施設・設備を効果的に活用して教育活動を行っている。 教職員 = 14 名 保護者 = 74 名 生徒 = 83 名 全回答数 191	171 89.5%	○生徒の学びを支える環境づくりを推進するため、余裕教室や多目的スペースの効果的活用を進めるとともに、ICT環境の整備と活用を充実させる。定期的な施設点検を行い、必要な修繕・改修を計画的に進めることで、より良い教育環境の実現を図る。	A	A
	学校関係評価者による意見	・学校HPよりも、スマートフォンで見やすいすぐるでのメールなどは、使いやすい、見やすいと思われます。 ・夏の暑さ対策でエアコン設置教室のフル活用、送風機の活用をしてほしいと思います。 ・トイレ(女子、便座)など、早く修理して、使いやすいしてほしいです。			
保護者・地域との連携	13 保護者や地域からの意見を聴き、学校改善に役立っている。 教職員 = 14 名 保護者 = 77 名 生徒 = <input type="checkbox"/> 名 全回答数 98	91 92.9%	○保護者への情報提供の充実。学校行事の公開や説明会の実施を継続し、学校の取組や生徒の成長を分かりやすく伝える。また、アンケートだけでなく、個別懇談など保護者と直接対話できる機会を計画的に設ける。 ○情報発信力の向上。HPの内容をさらに充実させ、学校の教育活動をタイムリーに発信することで、保護者・地域との連携を深める。 ○サマーコンサートなどの地域行事を通して、地域とのつながりを強化し、学校の取組や課題を積極的に共有し、地域と協働して学校運営を支える体制づくりを進める。	A	A
	14 簾舞中学校は【子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり】に学校として取り組んでい 教職員 = 14 名 保護者 = 73 名 生徒 = 90 名 全回答数 191	177 92.7%	○安心して過ごせる環境を整え、互いの良さを認め合う関係づくりを進める。 ○相談しやすい体制を整えるため、学年担任制を生かし複数の教職員による組織的な見守りを行い、ICT活用と関係機関連携による個別支援を充実させる。 ○家庭・地域とともにある学校づくりを目指し、情報発信を充実させ家庭・地域と協働した開かれた学校づくりを推進する。	A	A
	15 簾舞中学校は、いじめが起らないような取組や呼びかけを適切に行っているか 教職員 = 14 名 保護者 = 80 名 生徒 = 85 名 全回答数 191	179 93.7%	○授業や日常生活の中から、生徒の心の状況や人間関係の把握に努め、生徒の気持ちに寄り添った丁寧な指導を継続していく。 ○生徒会によるいじめ防止の取組、特別の教科道徳の充実、学校生活全般で道徳的価値に基づいた生き方の自覚を図っていく。 ○昨年度より、健康観察アプリ「シャボテン」を導入し、ICTを活用しながら、毎朝生徒の心身の状況把握に努めている。	A	A
学校関係評価者による意見	・いじめは、外からはわからないことが多いので、健康観察アプリ、心身の状況把握などを行っている事は、とても良い取り組みだと思います。 ・学校の素晴らしい教育活動を理解して頂くため、今まで以上に地域の児童会館や街作りセンターへの情報提供を行ってほしいと思います。 ・今まで通り、先生、保護者、地域が温かい目で安心、安全で中学校生活を見守っていただきたいです。				

学校関係者評価者による「全体に対する付帯意見」

・年々子どもたちのために何をすべきか、どうしてあげたら良いのかなど、学校はいろいろ取り組んでいることが増えていると思います。これからも続けてください。
・いつも簾舞中の子どもたちにご尽力を注いでくださりありがとうございます。少人数ということもあり、メリットもありますが大変なことも多いと存じます。今後ともよろしく願っています。